

教育システム情報学会

Japanese Society for Information and Systems in Education

旧CAI学会

ニュース・レター No.99



JSiSE99

今年の夏は園田へ

第24回全国大会のご案内

21世紀に向けての確かな飛躍

今年の全国大会は、8月6・7日、園田学園女子大学にて開催されます。研究発表は、150件程度を計画しております。また、今回の全国大会では、テーマ別セッションにて、研究部会ごとに一定のテーマで発表・討論をおこないます。いずれのセッションでも、多くのご発表とご参加をお待ちしていますので、ぜひお申し込み下さい。

開催日時	1999年8月6日(金)、7日(土)
場 所	園田学園女子大学 〒661-8520 兵庫県尼崎市南塚口町7丁目29-1
主 催	教育システム情報学会
後 援	文部省 / 通産省 / 兵庫県教育委員会 / 大阪府教育委員会 / 神戸市教育委員会 / 大阪市教育委員会 / 尼崎市教育委員会 / IEC (情報教育学研究会) / 兵庫県教育工学研究会 / 大阪府高等学校情報教育研究会 / 大阪府立高等学校教務パソコンソフト研究会

大会日程

第1日目 (6日(金))

9:00~	受付開始
10:00~12:00	一般セッションA
12:00~13:30	昼食
13:30~14:00	総会
14:00~14:50	基調講演「21世紀に向けての教育システム情報学会の方向性」 講師 対馬勝英先生 (大阪電気通信大学教授)
14:50~15:40	特別講演「メディアリテラシー—阪神淡路大震災を経験して—」 講師 林英夫先生 (サンテレビジョン報道制作局アナウンスチーフ)
16:00~17:50	テーマ別セッション
CAI 利用研究部会:	WWW を利用した CAI システム
インターネットと教育応用研究部会:	分散環境における協調学習支援 (CSCL)
マルチメディア研究部会:	テーマ未定
情報教育部会:	高等学校における新カリキュラムにむけての情報教育
18:10~19:40	懇親会

第2日目 (7日 (土))

9:00~
10:00~12:00
12:00~13:00
12:00~14:00
13:00~14:00

15:00~17:00
15:00~17:00

受付開始
一般セッションB, 英語セッション
昼食
ポスターセッション (発表)
パネル討論会「近未来教育に対する教育システム情報学会の役割と期待」
司会 矢野米雄先生 (徳島大学工学部教授)
一般セッションC
ホームページセッション (発表)

右頁につづく

研究発表申込書

参加種目	<input type="checkbox"/> 一般セッション	<input type="checkbox"/> テーマ別セッション	研究部会名:	<input type="text"/>
	<input type="checkbox"/> 英語セッション	<input type="checkbox"/> ポスターセッション	<input type="checkbox"/> ホームページセッション	
発表タイトル	<input type="text"/>			
要旨 (200文字程度)	<input type="text"/>			
キーワード (5つ)	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
発表者名	お名前	所属		
	<input type="text"/>			
※複数で発表される場合には、口頭発表者、もしくは代表発表者に○をつけてください。なお、発表者は1名以上が本学会会員でなければなりません。(当日までにご入会ください)				
連絡先				
宛先	<input type="text"/>	○自宅 ○所属先		
〒	<input type="text"/>			
住所	<input type="text"/>			
	<input type="text"/>	<input type="text"/>		
Tel.	<input type="text"/>		Fax. <input type="text"/>	
E-mail	<input type="text"/>			

送付先: 教育システム情報学会第24回全国大会事務局

(園田学園女子大学 情報教育センター内)

〒661-8520 尼崎市南塚口町7-29-1 FAX: 06-6424-2188 E-mail: 1999p@jsise.org

大会参加費	参加費	1000円
	論文集代	5000円
	論文投稿費	1000円
	懇親会費	5000円

論文原稿締切 6月19日(土)

* 申込締切は5月29日となっていますが、本紙がお手元に届くのが6月に入ってしまうとおもいますので、お手数ですが下記の照会先にお問い合わせくださるようお願いいたします。

教育システム情報学会第24回全国大会事務局 (JSiSE99 事務局)

住所：〒661-8520 尼崎市南塚口町7丁目29-1

園田学園女子大学 情報教育センター内

TEL 06-6429-9909 FAX 06-6424-2188

事務局：jsise99j@sonoda-u.ac.jp

展示広告：jsise99x@sonoda-u.ac.jp

参加申込：jsise99e@sonoda-u.ac.jp

研究発表：jsise99p@sonoda-u.ac.jp

JSiSE全国大会若手の会ワークショップの発表・参加募集

テーマ 「ネットワーク環境における新しい教育・学習支援」

日時 1999年8月5日(金) 午前10時～午後5時

場所 園田学園女子大学情報教育センター(兵庫県尼崎市南塚口町7-29-1)

概要 インターネットに代表される大規模かつ高速の情報ネットワークを手にした現在、教育・学習環境が大きく変わろうとしています。今回のJSiSE若手の会ワークショップでは、こうした時代の流れを踏まえて、新世紀に向けて「必要とされる学習支援とは何か?」、「どんな技術が求められるか?」を議論したいと思います。WWW, 協調学習, グループ学習, エージェント, ハイパーメディアを中心に、様々なトピックの発表を募集いたします。若手研究者・学生の方々はもちろんのこと、自称ワカテの方も大歓迎です。また、発表ではなく、参加だけでも構いません。奮ってご参加ください。また、ワークショップ終了後には懇親会も予定しています。

予稿集について ワークショップでの発表原稿は、8月6日から行われます全国大会の予稿集に掲載されます。

参加費などについて ワークショップに発表・参加された方は、全国大会にも発表・参加することができます。ワークショップの参加費につきましては、全国大会での発表・参加費に含まれることになります。

申し込み期限は5月29日となっていますが、本紙がお手元に届くのが6月に入ってしまうとおもいますので、お手数ですが下記の照会先にお問い合わせくださるようお願いいたします。

発表原稿〆切：6月19日

申し込み/照会先 大阪大学産業科学研究所 柏原昭博(申し込み, 問い合わせは電子メールにてお願いします。)

E-mail : kasihara@ai.sanken.osaka-u.ac.jp

99年度研究会の予定

今年度から現在の4部会に加え、マルチメディア教材研究部会と知識・言語処理応用研究部会の2つの研究部会が新設されました。6つの研究部会の持ち方と日程を以下に示しますが、日程や会場については、まだ確定していないものもありますので、予定としてご理解いただければ幸いです。確定しましたらあらためてニューズレターでお知らせいたします。

企業内教育研究部会（部会長／小松秀園，代表幹事／松居辰則）

99年10月22日（金） 14：00～，会場は工学院大学

CAI研究部会（部会長／黒瀬能幸）

99年11月27日（土），会場は岡山大学

インターネットと教育応用研究部会（部会長／横山節雄，代表幹事／米澤宣義）

99年12月4日（土），10：00～，会場は工学院大学新宿校舎28F第2会議室

情報教育研究部会（部会長／山本恒）

2000年3月中旬，会場は園田学園または工学院大学

マルチメディア教材研究部会（部会長／磯本征雄 代表幹事／大下眞二郎）

未定

知識・言語処理応用研究部会（部会長／伊藤紘二，代表幹事／池田満）

未定

問い合わせは、それぞれの部会長または事務局にお問い合わせください（前号参照）。

[第71回研究会 報告]

・本部主宰研究会・一般

昨年度最後の研究会です。ここに掲載してあるのは、概要ですが、これらの論文は、研究報告書にあります。ご希望の方は、事務局までFAX（03-3342-0485），またはE-mailでお申し込みください。1部1300円（送料共）です。残部切れの際はご容赦ください。この「研究報告」の年間購読（購読料は送料込みで年間4,000円）をご希望の方は事務局までご連絡ください。今年度から発行回数が増えています。この際、ぜひ購読されるようおすすめいたします（教育システム情報学会研究委員長／大下眞二郎）。

・開催日：平成11年3月18日（金）

・場 所：信州大学

1. 教員養成課程における情報リテラシー育成のための教育内容

角和博（佐賀大学）

本報告では、まず教員養成系課程の1年生を対象とした「情報基礎概論」の事前調査の結果をもとに高等学校までの学習状況について検討した。つ

ぎに中等教育段階の情報教育に関する学習指導要領の内容を整理した。さらに講義で用いる自作テキストの項目とそれに関連した補足説明と課題を提示した。これらの内容を相互に検討し、今後の「情報基礎概論」の内容を検討した。

2. 中学校における「総合的な学習」と情報教育

草場聡宏（佐賀市立城西中学校）

1998年12月告示の中学校学習指導要領で新設さ

れた「総合的な学習の時間」における情報教育のあり方と、学習活動を支える基盤としての校内LANの構築及び運用上に考慮すべき点について検討した。その結果、「総合的な学習の時間」を使って、1年生の早い段階でコンピュータの基本的な操作方法、サーチエンジンを使ったWeb検索の方法を学習するカリキュラムを作成した。これにより、各教科等での学習活動を効率よく進めることができるであろう。

3. 中学生の Logo プログラミングにおける課題の拡散性と思考過程との関連

森山潤（信州大学）

中学生による Logo プログラミングにおいて、課題の拡散性が学習者の思考過程に与える認知的な影響について検討した。その結果、統制的な課題では、独創性の高い生徒の問題理解や局所的なモニタリングが阻害されること、課題に含まれる方法や目標が拡散することによって、柔軟性の高い生徒の大局的なモニタリングや問題表象に対する吟味が促進されること、などの傾向を明らかにした。これらの結果より、課題の拡散性は、学習者の特性によって認知的な ATI を生じさせる可能性が示唆された。

4. プログラミングスタイルの診断システムの構築

関本理佳・海尻賢二（信州大学）

C プログラムの中からプログラミングスタイルに違反する箇所を検出することにより、良形度の高いプログラムの作成を支援する、プログラミングスタイルの診断システムを実現した。初心者プログラマ 86 人を対象に、プログラミングスタイルの違反（悪形パターン）を修正してもらう実験を行った結果、悪形パターンの検出、修正、および所要時間において本システムの有効性が確認できた。本稿では、システムの概要と実験に基づく評価について報告する。

5. マルチメディア教材検索システムの運用と今後

伊藤敏（愛知技術短期大学）、
磯本征雄（名古屋市立大学）

近年の教育における特徴の一つは、コンピュータを活用した各種教育ソフトウェアや教育用教材

が開発され、これを正規の授業で使われることが多くなったことである。筆者らは、これらの教材が有効に活用される環境を作るために、インターネット上に情報交換と流通のためのホームページ MEDINFO を開設した。本論文では、その 15 ヶ月に渡る運用実績とシステム構成、サービス内容、さらに本システムの今後について議論する。

6. 信州大学におけるマルチビジョン利用の遠隔講義システム

山沢清人（信州大学）

（当日原稿）

7. WWW を利用した教育法に関する一考察 - 現状と新方式の提案 -

海尻賢二・関本理佳（信州大学）

WWW は教育に広く用いられている。信州大学工学部情報工学科においては種々の形態で WWW を教育に取り入れている。本論文では利用の現状及びその評価を行い、授業補助という観点からの新しい方式の提案を行う。

8. WWW を利用したバーチャルクラスルームにおけるテレビ講座型学習とテキスト読書型学習について

吉田敦也・下村武久（京都工芸繊維大学）

バーチャルクラスルームの構築を行い、その試験運用の過程において、テキスト読書型学習とテレビ講座型学習における学習効果の比較評価実験を行った。その結果、受講者の満足度はテレビ講座型学習の方が高い傾向が示された。一方、理解度に関しては、テキスト読書型学習の方が効果的である可能性が示された。

これらのことからバーチャルクラスルームにおけるマルチメディア要素の使い分けの重要性について考察した。

9. 子供用インターネット学習支援システムの構築

伊藤剛和（園田学園女子大学）

子どもたちが、コンピュータを使って学習活動を進めるにあたって、難解な用語などの解説情報の付加や平易な表現への言い換えなど、子どもたちが読みやすい情報へ変換するインターネット学

習支援システムの構築をすすめている。本研究では、この学習支援システムの動作メカニズムと、この学習支援システムによって明らかになったことを報告する。

10. C言語プログラム演習のための検査システムの開発

最首和雄・石田賢孝（明星大学）

明星大学経営情報学科で利用している教育システムの報告である。C言語の講義、演習で使用している。講義用にWeb上でのコンテンツ、CAIシステム、Cプログラムの検査システムからなる。この報告ではCAIシステムの解答照合機能の向上、現在開発している簡単なCプログラムの検査システムについて報告する。

11. ActiveX と CGI を利用した表計算学習支援システム

高橋進（信州短期大学）

短期大学における情報リテラシー教育の中では、表計算の実習はワードプロセッサと並び重要な柱となっている。本研究ではWWWのGUIをベースに、ActiveXテクノロジーとCGIを使い、表計算の学習を支援するシステムを学内のネットワーク上に試作開発した。本システムは、普段学生が使い慣れている表計算ソフトのインターフェースをそのまま生かしている。また、サーバーとクライアント間のセッション認識にcookie識別子を利用して、学習者の個別認識も可能となる個人適応型のシステムとなっている。

12. シミュレーション教材の設計・開発と教育利用の課題

- 惑星間宇宙旅行シミュレーションを例として -
磯本征雄・中野宇宙（名古屋市立大学）、山崎初夫（名城大学）、伊藤敏（愛知技術短期大学）
コンピュータ・シミュレーションは、日常的体験の困難な事柄の疑似体験や抽象的な法則・規則のモデル化による視覚化の方法として教育上有用かつ重要な役割を果たしている。

一方、シミュレーションは現実そのものではないので、教材設計開発と教育利用には注意は必要であり、慎重に対処すべき事柄が多々ある。本論

文では、惑星間宇宙旅行シミュレーション・ソフトウェアを実例に、シミュレーション・ソフトウェア開発と利用に関わる事柄を考察する。

13. シミュレーションによる経営計画作成演習の実践

松永公広（摂南大学）、岩崎重剛（大阪電気通信大学短期大学部）、菅井勝雄（大阪大学）

教育用のシミュレーションを利用する学習者は、学習する過程で、課題に含まれる学習目標を認識し、シミュレーションの機能を自由に操作し、問題解決の仮説を形成し、自分の思考履歴を見直し、不足する知識を学習することができる。

さらに学習者同士が、そして指導者が協力して問題解決できる。本論文では筆者らの開発した経営計画演習用のシミュレーションを用いた演習を実践して、1) 学習者は、経営計画シミュレーションを利用した新しい学習形態を抵抗無く受け入れられている、2) 成績は演習がすすむにつれて順調に伸びている、3) 適切な経営計画が立てられるようになる、4) 徐々に自己評価も高くなっている、5) 経営計画シミュレーションの高速計算機能や見やすいデータやグラフの表示機能が学習に有効である、6) 類似の事例に自己が獲得した学習内容を適用してある見通しを持つようになりつつある、7) 学習者は協力して学習する、8) 指導者は重要であることなどが知られた。

このようにシミュレーションは、従来型の「知識学習を中心とする教育」から目標を達成するための「思考力を育成する教育」への変化の時代の教材として有効と考えられる。

14. 知的障害者用ゲーム型CAIの製作（数の概念）

松木裕美・半田志郎・大下真二郎（信州大学）

タッチスクリーンを用いて、知的障害児が楽しく遊びながら学習できるゲーム型CAIを製作した。「神経衰弱ゲーム」をパソコン上で構築し、1から3までの数をマスターできるようになっている。

国際会議の案内

ここで紹介されている国際会議は、教育システム情報学会の会員のみなさんからの紹介やインターネット上で流れている CFP 情報をもとに編集されています。会員のみなさんに紹介したい国際会議などがありましたら、下記までご連絡ください。また、実際に国際会議に参加されたレポートなどを送っていただければ今後の国際会議の案内作成の際に大変参考になりますのでそちらのほうもお待ちしております。

本案内はWWW (<http://www.fu.is.saga-u.ac.jp/hayashi/jsise/conf.htm>) で見ることもできます。

(締切日の延期により再掲)

ICCE99 : 7th International Conference on Computers in Education

開催日程 : 1999年11月4～7日

主催 : Asia-Pacific Chapter of AACE

開催地 : かずさアカデミアセンター, 木更津, 千葉

論文応募締切 : 1999年5月25日

URL : <http://www.ai.is.uec.ac.jp/icce99/>

E-mail : icce99@ai.is.uec.ac.jp

VR 2000 : IEEE Virtual Reality 2000 International Conference

開催日程 : 2000年3月18-22日

主催 : IEEE Computer Society

開催地 : Hyatt Regency Hotel, New Brunswick, New Jersey, USA

論文応募締切 : 1999年9月1日

URL : <http://www.caip.rutgers.edu/vr2000>

e-mail : burdea@vr.rutgers.edu

AFSS 2000 : The Fourth Asian Fuzzy Systems Symposium

開催日程 : 2000年5月10-13日

主催 : Japan Society for Fuzzy Theory and Systems

開催地 : Tsukuba Science City, Japan

論文応募締切 : 1999年9月30日

URL : <http://soft.amcac.ac.jp/afss2000/>

e-mail : yasunobu@esys.tsukuba.ac.jp

IEA 2000 : 14th Triennial Congress of the International Ergonomics Association

開催日程 : 2000年7月30日-8月4日

主催 : International Ergonomics Association

開催地 : San Diego California Marriott, San Diego, California USA

論文応募締切 : 2000年1月8日

URL : <http://iea2000.hfes.org/>

e-mail : hfes@compuserve.com

文責 松原行宏 (香川大学) matsubar@eng.kagawa-u.ac.jp

第13回学生によるコンピュータ利用研究発表会が開催される (JSiSE関西支部)

教育システム情報学会情報教育部会および同関西支部の共催による「第13回学生によるコンピュータ利用研究発表会」が3月13日(土)に甲子園大学で開催された。この発表会は、関西の大学、短期大学、高等専門学校、専門学校の学生を対象として、コンピュータを利用した研究やシステムの設計・構築などの成果を発表する場となっている。当日は、同大竹内学部長の挨拶の後、2つの会場に分かれて午後5時まで、16件の研究発表が行われた。その内容は非常に多岐にわたった。午後2時半頃から激しい雨となったが、教員、学生合わせて60名を超える参加者があり、熱心な発表と質疑が行われた。内容については uemukai@koshien.ac.jp へお尋ね下さい (文責 : 甲子園大学 上向井照彦)。



1999年3月1日～1999年5月10日

新入会員（敬称略）

- JSiSE-9901593 末弘 剛 大阪電気通信大学
JSiSE-9901594 森山 潤 信州大学
JSiSE-9901595 堀田厚生 ㈱日立超 LSI システムズ
JSiSE-9901596 伊藤照明 徳島大学
JSiSE-9901597 谷口祐治 琉球大学
JSiSE-9901598 越智幸一 旭川大学女子短期大学部
JSiSE-9901599 姜 泰秀 ㈱シンフォーム
JSiSE-9901600 舟生日出男 東京理科大学大学院
JSiSE-9901601 瀧澤琢哉 (学)産能大学
JSiSE-9901602 木村友久 都城工業高等専門学校
JSiSE-9901603 大塚志穂 東海大学 開発工学部
JSiSE-9901604 長谷川忍 大阪大学産業科学研究所
JSiSE-9901605 谷口泰三 ㈱毎日新聞社
JSiSE-9901606 杉浦美佐子 日本赤十字愛知短期大学
JSiSE-9901607 小林純子 日本赤十字愛知短期大学
JSiSE-9901608 奥村潤子 日本赤十字愛知短期大学
JSiSE-9901609 年森敦子 鎌倉女子大学
JSiSE-9901610 宗像 勉 玉川大学
JSiSE-9901611 匂坂智子 電気通信大学大学院
JSiSE-9901612 羽根秀也
JSiSE-9901613 柳原 守 小松短期大学
JSiSE-9901614 鳥居吉治 電気通信大学大学院
JSiSE-9901615 寺尾英作 茨城大学

- JSiSE-9901616 奥川峻史 福井大学
JSiSE-9901617 龍 昌治 愛知大学
JSiSE-9901618 井町充晶 大阪電機通信大学
JSiSE-9901619 范 芳 獨協大学
JSiSE-9901620 荒関仁志 日本大学
JSiSE-9901621 田中早苗 東京家政大学短期大学部

新年度（99年度）

会費を請求しています。

会費の前納にご協力ください。

3月に新年度（99年度）会費を請求させていただきました。ご納入いただきましてありがとうございました。

今回は、まだ納入いただいていない方の方に、あらためて請求書と振込用紙を同封していますので、ご納入いただけますようお願い申し上げます。

2年、3年とまとめて納入される方もいらっしゃいますが、学会運営は単年度予算で運営しています。1年単位の会費納入にご協力くださるよう重ねてお願いいたします。

なお、すでに99年度分を納入されていたり、請求書記載の金額がちがう場合は、お手数ですが、請求書発行時の行き違いとも思われますので、事務局へお問い合わせくだされば幸いです。

E-mail : secretariat@jsise.org

99年度ニューズレターの発行予定

みなさまからの原稿をお待ちします。お寄せください。

原稿の締切りは、発行月の10日です。号によって若干の違いがありますので、事務局にお問い合わせください。

- No.99 1999年5月下旬
No.100 1999年7月下旬（大会直前号のため上旬になります。原稿締切は6月末日）
No.101 1999年9月下旬
No.102 1999年11月下旬
No.103 2000年1月下旬
No.104 2000年3月中旬（原稿締切3月1日）